

廈門大學圖書館珍藏
主編：季嘯風、沈友益

中華民國史史料外編

日文史料
第二十六冊

——前日本末次研究所情報資料

廣西師範大學出版社

華北聯省自治政府

組織大綱略々決定す

NOV 13 1935

東朝

九部門・委員制採用

【天津特派員十七日發】 宋哲元、韓復榘兩氏の二大勢力を中心とする北支新政運動は、愈々具體化するに至つた模様である。新政權は華北の防共自治を主體とするもので、名稱は「華北聯省自治政府」としこれを北平に置くことに決定したといはれる。自治政府の組織は内政、外交、財政、軍事、司法、警察、交通、鑛業、建設の九部門に分ち、委員制を採用し、最高行政委員會を結成、監察機關を設けることになつた。自治政府は南京政府の政治的承認を受けず人事は悉く自治政府に依り任命、正式宣言と並に綱領を發表し東洋平和安定を期するため日滿支三國提携に邁進するものと見られてゐる。自治政府の委員には在野要人たる曹汝霖、王揖唐兩氏その他國民黨派の有力者を起用するといはれてゐる。

近く爆彈的宣言

【北平特派員十七日發】 十一日夜、韓中決定に向つた河北省主席韓復榘氏は十八日北平に歸還することとなつたが同氏の保定行は北支政局がデリケートな機關を呈しつゝあるだけに韓氏の歸還を生み三省自治運動上りの急進とまへ見られた。然し韓復榘氏の北平歸還は三省自治運動の進展問題につき宋哲元氏との間に意見の齟齬を見出した結果であるといはれる。韓氏の歸還により宋、商の協力は一層強化されるものと見られる。他方三省自治につき宋哲元氏と完全なる意見の一致を見た韓復榘氏は二十日頃濟南より北平に乘込むこととなつた。斯くて韓、商、宋の三省主席及び平津警政司官宋哲元氏、北平市長韓復榘氏、天津市長韓復榘氏等會合の上北支に於ける各勢力派の現状の協定を基盤として三省自治の最後の大協議を行ひ、内外に對し爆彈的宣言を發表するものと見られてゐるに當つた。

目 要

新政權實現に拍車

國民自救會が通電

【天津特派員十七日發】北支那の自治政權樹立促進を期するため國民自治會は晉河事件の立役者武宣成氏および王連中氏、天津の陳修天氏並に國民自治會の劉大望氏と密接なる聯絡の下に十七日北支那各省當局、平津各機關、河北諸團體、各新聞社に對し大要次の如き通電を發し北支自治政權樹立運動に一段の拍車をかけるに至つた

華北各地の農民及び一般大衆は南京政權の苛酷深永久しきに互らため民は生色なく華北一億民衆は日に衰落の途を辿り救済するに難し吾人はこゝにおいて國民再生を念とする。宋哲元及び韓復榘兩主席の五全大會に設せる通電の趣旨を全幅に支持し兩巨頭を推戴し華北における國民本位の新政治實現を期す

韓氏を武力壓迫

徐州、海州に中央軍集結

【天津特派員十七日發】山東省政
府主席韓復榘氏の北支自治政權合
流は最早表面に現れてゐるので、南
京政府は韓復榘氏の背後を脅かす
べく徐州及び海州一帯に中央軍三
個師を集結し、覆讐的武力壓迫の姿
勢を示すに至り山東省境方面の政
情は緊迫を告げつゝある

NOV 20 1935

縣を單位に自治政權

北支全土に樹立

綱 四

實力者に先だつ農民團體

「天津特電十八日發」現時大に
 勢めてる農民運動は、北支全土に樹立される
 運動に乗り大衆行動を起しつ
 あり、平津に本部を持つ組織として、農民團體とする自治政權が實力
 の準備は各支那との連絡に力を入
 れ、二、三日中に民衆の手によつて、宋哲元、張作霖、韓復榘氏
 等の等化にこのため一歩前進され
 るものと観測さる

巨頭近く勢揃ひ

北平、天津で具體的協議

「北平特電十八日發」北支政權樹立
 運動、張作霖、韓復榘氏等と見したと毛澤東に赴
 きて、張作霖市長を始め、張作霖、韓復榘氏等とも意見して自治
 運動は急々樹立となり、人民自治
 會は十八日、宋哲元、韓復榘氏に
 對し即時自治政府の樹立、赤化防
 止の要請を要求し、新臨時聯合
 會も同日全國に北支自治要求の通
 電を發した、又一方態度を強しま
 れてゐた張作霖も、漸く積極的に乗
 り出し、北平において宋哲元、

韓氏に先だち

三廳長赴平

「濟南特電十八日發」北支自治政
 權に參加すべく韓復榘氏が北平に
 飛込むに先立ち十七日、民政廳長李
 鳳春、財政廳長王揖唐、建設廳長
 張瑞貴三氏が北上した

要

北支自治政府の成立と吳佩孚氏の推挙

目

愈よ廿五日ごろ

聯省自治を堂々宣示

最高主班に吳佩孚氏推舉

福日

明朗北支へ工作進む

【北平十九日發電通】北支民衆の要望に基き愈は近日中に實現することとなつた新政權の最高主班者として吳佩孚氏を推舉することに各關係方面の意見が完全に一致を見た。而してデヤヘル省主席盧鳳民が昨日支那記者團に對し「五全大會後北支新組織樹立せられんと言明したところを見て第一次宣言の發表は豫定より遅れて二十三日以後となること明瞭となつた。従つて北支新組織の政體を堂々と天下に宣示する最重要通電は二十五日頃となること確實となつた。

要

今回の北支那の自治運動は國民の福利増進を要する純然たる民衆の自治運動であり國內問題だから内政干渉を行ふ意志は持たない然し同地方が日支停戦協定地域内であり接隣地帯である限り我が國として絶大の關心を持ち北支那と日滿との間の經濟的文化的提携を密接強固ならしめるやう希望し助力を與ふる事又赤化防衛につき協同措置を考慮する事は日滿兩國として當然の事だ從つて英米として北支の自治を正當に認識するならば滿洲事變の際の如き抗議とか申入れ等の如きは再び重なる事は信ぜられぬとしてゐる

英國は北支新事態に

深甚な關心を拂ふ

但し觀望の外に出ぬ

かめ態度に出ず北支の自治運動に對しては終始傍觀的態度の外に出でないものと解される

九ヶ國條約を援用する

意圖は全然なし

フリップス國務次官確言

意の推移を注視するが九ヶ國條約を援用して日本政府に申し入をなすが如き意

圖は抱いてはいない旨確言したフリップス次官は曰く

北支那の情勢については駐支大使館や領事館等から報告が續々入つて居るが新情勢により在留米人の生命財産が危險に類するが如き様子は全然なく中國政府に於て何等かの處置に出る必要を認めない政府に於ては現在のところ九ヶ國條約を援用するが如計畫は全然なく北支にある大使館に一任した又天津駐屯軍を撤収するまでのことは考慮して居ない。

【ロンドン十九日發聯合】

英國政府は北支の新情勢には深甚な關心を拂ひつゝあるが刻下の國際情勢に於て滿洲事變當時の如き融通のき

【ワシントン十九日發聯合】

フリップス國務次官は十九日午後新聞記者團との會見に於て北支那の新情勢に言及米國政府としては事

目 要

北支三巨頭會議遷延
代理大使官等對大韓步隊等事老面告す

末次研究所

NOV 21 1935

満 日

北支三巨頭會議遷延

自治宣言發表も遅れん

【北平二十日發國通】韓復榘氏の入平遅れ、三巨頭會議遷延のため自治宣言も兩三日後となつた。韓氏は飛行機をとりやめ特別列車で二十日夕刻到着するので、宋哲元氏はこれを迎へるべく二十日早朝天津へ向つたが、兩巨頭連絡へて

自治運動抑止

外交々渉では不可能

北支當局國府の奸策を嗤ふ

【北平十九日發國通】十八日午後東京において丁代理大使より電光次官に對し日支關係根本方針の三

要則たる日支關係、北支の特殊地帶承認、日支赤化共同防衛を承認する旨を通告し、これが具體案

の大半は今夜か明朝と期せられる。韓氏を加へての三巨頭會議のため却て北平の各要人は、韓氏の下にこの歴史的會談を迎へるべく緊張の裡に機嫌な往來を示してゐる。

【ワシントン十九日發國通】フィリップス國務次官は十九日午後新聞記者との會見において、北支那の新情勢に言及、米國政府としては事態の推移を注視するが、九ヶ國條約を援用して日本政府に申入れをなすが如き意圖は抱いてゐない旨陳言した。フィリップス次官は曰く

NOV 21 1935

満 日

米國務次官の確言

何等かの處置に出る要なし

【ワシントン十九日發國通】フィリップス國務次官は十九日午後新聞記者との會見において、北支那の新情勢に言及、米國政府としては事態の推移を注視するが、九ヶ國條約を援用して日本政府に申入れをなすが如き意圖は抱いてゐない旨陳言した。フィリップス次官は曰く

北支那の情勢については駐支大使頭や領事館などから報告が入つてゐるが、新情勢により存留米人の生命財産が危殆に瀕する如き様子は全然なく、米國政府において何等かの處置に出る必要を認めない、政府においては現在のところ九ヶ國條約を援用する如き意圖は全然なく、北平にある大使館を移轉したり、天津駐屯軍を撤收するなどのことは全然考慮してゐない

要
滿洲、モンゴル、チベット、新疆、蒙古、朝鮮、支那の行動をみる

オラズキ

北支自治運動と列國

策の施しやうなし

NOV. 21 1935

満日

英政府本音を吐く

【ロンドン二十九日路透電】英國政府は北支の新情勢に深甚な關心を拂ひつゝあるが、北下の國際情勢において滿洲事變當時の如き融通の利かた態度に出ず、北支の自治運動に對しては終始協同政策に出る意旨の如く十九日午後非公式に次の如く述べた

一、北支並の新情勢に對しては英國政府としても深甚の懸念を蒙ることが出来ない、刻下の諸情勢において効果的に日本政府に抗議を提出することが出来る

二、事情の如何に拘らず滿洲、ニューギランド乃至シンガポールが脅威される場合には英國政府においても適當な對策を講じなければならぬが、然らざる限り何等効力を期待出来る行動には出ない

一、現地よりの公報によれば上海の情勢はその後緩和したといはれ、日本政府もまた何等の行動に出ぬ旨確言してゐるから推移を靜觀する外はない

の情勢はその後緩和したといはれ、日本政府もまた何等の行動に出ぬ旨確言してゐるから推移を靜觀する外はない

北支新事態と

帝國政府の方針

北支の特異性に鑑み

NOV 22 1935

北京

根本對策を決定！

【東京二十一日發聯合】南京政府の抜打的幣制改革に端を發した北支の新事態に對して帝國政府は外務陸軍海軍の關係三省及各省出先官憲との間に完全なる協調連絡を採り自治の推移を靜觀して居るが、川島陸相も既に大演習地より歸京したので愈々二十二日の議後閣關係三省會議を開き北支の日支停戰協定地域乃至これが接壤地帯たる重大性に鑑み帝國政府の根本對策を決定する筈である即ち廣田外相は前回の閣議に於て北支問題に對しては關係三省間に連絡協調を保持し萬遺憾なきを期して居るが更に關係三省會議を開き帝國政府の根本國策を決定したい旨を述べ各閣僚の諒解を求めた程

であるから陸相の歸京を見たので外務陸軍海軍の關係大臣會議を開き最近の情勢を持寄り慎重協議を送げ帝國の根本國策として北支對策を決定するものと見られて居る。

【東京二十一日發電通】川島陸相は明日閣議前廣田外相と會見し北支問題と對支交渉經過につき協議するが閣議に於ても廣田外相より北支情勢と對支交渉經過を報告する筈。

中央軍北支を威嚇！

北方自治に對して

中央軍の示威運動

萬一北方に兵を動かせば

NOV 22 1935

北 京

我軍山東に出兵す

（東京二十一日發電通）北支新情勢、就中韓復榘北支新政權參加に甚大な脅威を感じた南京政府は五全大會での蔣介石演説に全く反して韓復榘への武力牽制を企圖して十九日午後には徐州の線に三個師團、開封瀋陽の線には五個師團、順德には一個師團半、合計九個師團半の大兵を集中し尙兵力の北方移動を續行し居る事判明した之に對し北支の各軍憲はあくまでも抗爭すべく準備を進めて居る模様だが我が陸軍でも北支停戰協定、梅津何應欽協定並に昭和二、三年山東出兵の聲明に依る權益保持と居留民現地保護の大方針に依り中央軍が萬一韓復榘軍や北支軍に對し武力行動に出る事あれば直ちに山東出兵を敢行する決意と準備を有し事態の推移を慎重監視中である。

要

目

自治要望の達成は

華北防共の根本義

民衆運動更に積極化せん

我軍でも頗る強硬意見

京津

NOV 22 1935

北支自治運動の緊迫化に對して南京政府は機先を制し北支新事態を承認するが中央に於て時局拾収に當るを以つて地方當局は中央の交渉にまつべしと嚴重な命令を發し來り、一方南京に於て蔣介石氏が有吉大使と會見し一般的日支關係殊に北支問題に關して相當突込んだ質疑を重ねた模様で、この空氣を反映して北支政情も日和見的に變つて來た如き感があり領袖連の微溥的態度に據らぬ民衆團體は今後領袖離脱のため自治運動に積極的に乗出し領袖連にして是に應ぜざる場合は決然これを蹴飛ばし民衆自治を斷行すべしとの意氣込みをみせ、都市のみならず農村に於ても自治運動が再び活潑に行はれる形勢にあるので、我軍中央部では南京に於ける交渉はとにかくとしてかゝる民衆の要望を徒に彈壓するは疲弊せる農民大衆をして自暴自棄に陥らしめ引いては北支赤化の因をなすものなるを以つて、何よりも先づ農民大衆の眞摯なる要望を達成せしむることが北支を救ふ唯一の方法なりとし、民衆の熱望達成に對して相當強硬な意見を有してゐるものゝ如く従つて軍中央當局の意向は出先官憲にも反映すべく茲數日中には何らか具體的なやれをみるものと期待されてゐる

目 要

更に陸海外三省が

重要協議せん

NOV 22 1935

京津

明日の閣議後關係大臣會議

北支對策を決定

東京三十一日發(聯合)南京管である、即ち廣田外相は前政府の裁討的幣制改革に端を発した北支の新事態に對して帝國政府は外務陸海軍の關係を保持し萬遺憾なきを期して三省及び各省出先官憲間に充るるが更に關係三省會議を開き帝國の根本

協調聯絡を執り事態

國策を決定したい旨

の推移を靜觀してゐるが川島を述べ各關係の諒解を求めた陸相も既に大演習地より歸京程であるから陸相の歸京をみたので愈々二十二日の閣議たので外務陸軍海軍三關係大後關係三省の會議を開き北支臣會議を開き最近の情勢を保持が日支協定停戰地區乃至之が寄り重協議を遂げ帝國の根接壤地帯たる重大性に鑑み帝國策として北支對策を決定國政府の根本對策を決定するものとみられてゐる

要

目

天津自治運動の進展と、北支の自治運動が南京政府の老練なる政策によつて内面的變化を來し、緊張した空氣はやゝ緩和したかに見えてゐるが、自治運動領袖連のかゝる態度に對して嫌らすとなす各地民衆團體はこれら領袖連を鞭撻するするため密々對策協議中の模様で、天津でも華北人民自治促進團體が指導の下に昨朝八時七、八千の民衆を動員して市政府に對

NOV 22 1935

京津

昨日の自治請願運動は

當局が事前に彈壓

機關銃まで持出し民衆の憤激を買ふ

今後の形勢憂慮さる

態度

に對して嫌らす

北支の自治運動が南京政府の老練なる政策によつて内面的變化を來し、緊張した空氣はやゝ緩和したかに見えてゐるが、自治運動領袖連のかゝる態度に對して嫌らすとなす各地民衆團體はこれら領袖連を鞭撻するするため密々對策協議中の模様で、天津でも華北人民自治促進團體が指導の下に昨朝八時七、八千の民衆を動員して市政府に對

し和平手段による自治實行を請願する計劃があつたが公安局長劉玉書氏は暴動化を警戒して事前に防壓に努めると共に、北馬路、大經路、總站一帶に武裝保安隊を繰出し、機關銃まで持出して非常警戒を行つた。請願運動は結局事前の彈壓により實現せず北馬路商會

末次研究所

に集まつた數十名の民衆は公安局に檢束された運動指導者側では市當局が事前に請願を彈壓したのみならず機關銃まで持出して平和的な民衆運動を彈壓するが如き態度は甚だ不穩當だとなし非難の聲高く今後の形勢は頗る憂慮されるに至つた

華北公民自

救會通電

華北公民自教會では最近に於ける北支那情勢不安赤化の危險農民大衆の苦境を説いて此際速に自治政府を組織して陸邦の基礎を築き領土主權を保持し民族の前途を救済されたいと宋哲元、商震、韓復榘、熊振瀛、傅作義、徐永昌、秦德純、程克、沈鴻烈氏ら北支の當局に對して通電を發した